

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-012086

(43)Date of publication of application : 22.01.1993

(51)Int.Cl.

G06F 12/00

G06F 15/62

H04N 1/21

H04N 1/32

(21)Application number : 03-160693

(71)Applicant : SONY CORP

(22)Date of filing : 01.07.1991

(72)Inventor : TAO AKIHIKO
TAKANO SHUNSUKE
UCHIDA AKIRA

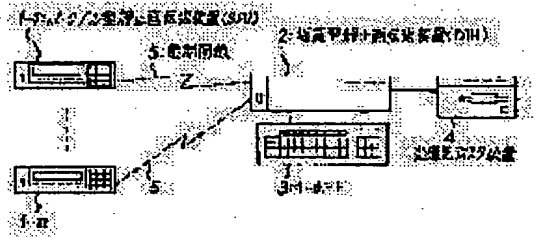
(54) DATA TRANSMISSION SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a data transmission system which can prepare a file name with small overlapping and perform quickly the saving operation without generating the complicity of the operation procedure of a terminal device at a transmitting side.

CONSTITUTION: A transmitting device 1-1 (1-2-1-n) and a transmitting device 2 are connected through a telephone line 5. A magneto-optical disk device 4 is connected to the transmitting device 2 as a filing device. When an image saving request is transmitted from the transmitting device 1-1 to the transmitting device 2, the transmitting device 2 prepares the file name by using the terminal ID, the data and time and transmits the data to the transmitting device 1-1. The transmitting device 2 saves the still picture data transmitted from the transmitting device 1-1 to a magneto-optical disk in the name of the prepared file. At the transmitting device 1-1, the designation operation of the file name can be omitted, the simplification of the operation, the saving of the demand due to the shortening of the operation time can be realized. By the terminal ID, the date and time, the file name can be singly decided, the file name retrieving time can be lessened and the saving operation becomes quick.

Best Available Copy



(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-12086

(43)公開日 平成5年(1993)1月22日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 12/00	5 2 0 F	8944-5B		
15/62	P	8125-5L		
H 0 4 N 1/21		8839-5C		
1/32	Z	2109-5C		

審査請求 未請求 請求項の数2(全13頁)

(21)出願番号 特願平3-160693

(22)出願日 平成3年(1991)7月1日

(71)出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72)発明者 田尾 昭彦

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内

(72)発明者 高野 俊介

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内

(72)発明者 内田 晃

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内

(74)代理人 弁理士 山口 邦夫 (外1名)

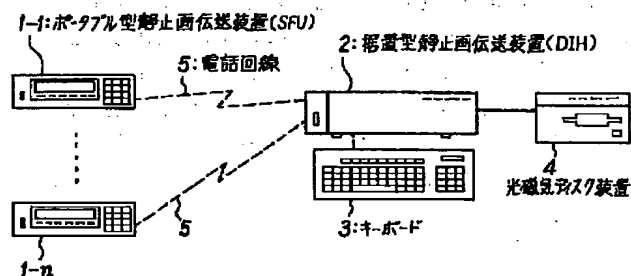
(54)【発明の名称】 データ伝送システム

(57)【要約】

【目的】送信側の端末装置の操作手順の煩雑化を招くことなく、重複の少ないファイル名を作成し、セーブ操作を迅速に行ない得るデータ伝送システムを提供する。

【構成】伝送装置1-1(1-2~1-n)と伝送装置2とを電話回線5を介して接続する。伝送装置2にはファイル装置として光磁気ディスク装置4を接続する。伝送装置1-1より伝送装置2に画像セーブ要求を送信すると、伝送装置2は伝送装置1-1のターミナルID、日付及び時刻を使用してファイル名を作成し、そのデータを伝送装置1-1に送信する。伝送装置2は伝送装置1-1より送信される静止画像データを、作成されたファイル名で光磁気ディスクにセーブする。伝送装置1-1ではファイル名の指定操作を省略でき、操作の簡単化、操作時間の短縮による消費電力の節約を実現できる。また、ターミナルID、日付、時刻でファイル名が唯一に決まり、ファイル名検索時間を少なくでき、セーブ操作が迅速となる。

静止画伝送システム



(2)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1の端末装置とファイル装置を備える第2の端末装置とからなるデータ伝送システムにおいて、

上記第1の端末装置より上記第2の端末装置にデータを送信して上記ファイル装置にセーブする際、上記第2の端末装置でファイル名が作成され、そのファイル名でセーブされることを特徴とするデータ伝送システム。

【請求項2】 上記ファイル名は、日付、時刻の少なくとも一方を使用して作成されることを特徴とする請求項1記載のデータ伝送システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、例えば静止画像データ等を伝送するデータ伝送システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、静止画伝送装置間で静止画像データの伝送を行なう静止画伝送システムが提案されている。静止画伝送装置にはポータブル型と据置型とがある。据置型の静止画伝送装置には光磁気ディスク装置等のファイル装置が接続される。

【0003】送信側の静止画伝送装置より電話回線を介して据置型静止画伝送装置に静止画像データが送信され、この静止画像データ（静止画ファイル）がファイル装置にセーブされる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このように静止画ファイルをファイル装置にセーブする際、送信側の静止画伝送装置でもってファイル名が指定される。

【0005】この場合、入力したファイル名が既に存在するファイル名と同じであるときは、既にセーブされている静止画ファイルが削除される。そこで、入力したファイル名で検索し、そのファイル名が存在しないことが確認される。

【0006】その結果、既に同じファイル名が存在するときは、ファイル名が再度指定され、そのファイル名で再度検索が行なわれる。

【0007】このようにファイル名が重複するときは、ファイル名の指定を繰り返す必要があると共に、かつ検索に費やされる時間も多くなる。

【0008】したがって、セーブ操作を迅速に行なうためには送信側の静止画伝送装置で重複しないファイル名を指定する操作を必要とするが、送信側の静止画伝送装置の操作手順の煩雑化を招くことになる。

【0009】そこで、この発明では、送信側の端末装置の操作手順の煩雑化を招くことなく、重複の少ないファイル名を作成し、セーブ操作を迅速に行ない得るデータ伝送システムを提供するものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】この発明は、第1の端末

装置とファイル装置を備える第2の端末装置とからなるデータ伝送システムにおいて、第1の端末装置より第2の端末装置にデータを送信してファイル装置にセーブする際、第2の端末装置でファイル名が作成され、そのファイル名でセーブされるものである。ファイル名は、例えば日付、時刻の少なくとも一方を使用して作成される。

【0011】

【作用】第2の端末装置でファイル名が作成されるため、送信側の第1の端末装置ではファイル名を指定する操作を省略できる。そのため、操作の簡単化、操作時間の短縮による消費電力の節約を実現できる。

【0012】また、ファイル名を日付、時刻の少なくとも一方を使用して作成するときは、ファイル作成時の日付、時刻でもってファイル名が唯一に決まる。そのため、1つのファイルシステム（ディスク等）に対してファイル名の重複が少なくなり、ファイル名検索時間を少なくでき、セーブ操作を迅速に行ない得る。

【0013】

【実施例】以下、図面を参照しながら、この発明の一実施例について説明する。

【0014】図1は、本例の静止画伝送システムの構成を示すものである。同図において、1-1~1-nはそれぞれポータブル型静止画伝送装置（SFU）である。図2は、伝送装置1-1（1-2~1-nも同様）の操作パネル面を示すものであり、11は電源スイッチ、12は液晶表示器、13は機能キー、14は数字キーである。

【0015】図1に戻って、2は据置型静止画伝送装置（D IH）である。3は伝送装置2に接続されるキーボード、4は伝送装置2に接続されるファイル装置としての光磁気ディスク装置である。

【0016】伝送装置1-1~1-nと伝送装置2とはアナログ電話回線5を介して接続され、伝送装置1-1~1-nおよび伝送装置2との間における静止画像データの伝送あるいは通信が行なわれる。

【0017】図3は静止画伝送システムのブロック構成を示しており、図1と対応する部分には同一符号を付している。同図において、伝送装置1-1~1-nにはそれぞれビデオ信号の入力装置としてビデオデッキ1a、ビデオカメラ1bが接続され、その出力装置としてモニター1cが接続されている。また、伝送装置2にはビデオ信号の入力装置としてビデオデッキ2a、ビデオカメラ2bが接続され、その出力装置としてモニター2cが接続されている。

【0018】ポータブル型静止画伝送装置1-1（1-2~1-nも同様）は、図4に示すように構成される。同図において、CPU101にはシステムバス102が接続される。このシステムバス102にはデコード（データ伸長処理）やエンコード（データ圧縮処理）の処理

(3)

プログラム等が格納されたシステムROM103、データ処理に使用されるワークRAM104、日時のデータを出力するリアルタイムクロック105が接続される。

【0019】また、システムバス102にはバッファRAM106を介してデジタルシグナルプロセッサ(DSP)107が接続される。DSP107では、静止画像データのエンコード(データ圧縮処理)およびデコード(データ伸長処理)が行なわれる。

【0020】また、システムバス102にはフレームメモリ108が接続される。フレームメモリ108には、ビデオデッキ1aやビデオカメラ1b等(図3に図示)からのビデオ信号がA/D変換器109でデジタル信号に変換されて静止画像データとして供給される。一方、フレームメモリ108より読み出される静止画像データはD/A変換器110でアナログ信号に変換されてモニター1c(図3に図示)に供給される。

【0021】また、システムバス102は内部モデム111を介してアナログ電話回線5に接続される。この内部モデム111を使用して伝送装置2との間で静止画像データの伝送および通信が行なわれる。なお、伝送装置1-1はデジタル回線(ISDN回線)には接続することができない。

【0022】また、システムバス102にはバックアップRAM112が接続される。このバックアップRAM112にはパワーオフ時に設定パラメータが保存され、パワーオン時にその設定パラメータでもってシステムがイニシャライズされる。

【0023】また、システムバス102には表示器インターフェース113を介して液晶表示器12(図2に図示)が接続される。この表示器12には、ファイル名の表示や、機能キー13に対応した機能表示等が行なわれる。

【0024】また、システムバス102にはキースイッチインターフェース114を介して機能キー13や数字キー14(図2に図示)を含むキースイッチ115が接続される。

【0025】一方、据置型静止画伝送装置2は、図5に示すように構成される。同図において、201は、光磁気ディスク装置4に対する書き込み、読み出しの制御、伝送装置1-1~1-nに対する静止画像データの伝送および通信の制御、エンコードあるいはデコード処理部に対する静止画像データの伝送の制御等を行なうCPUである。

【0026】CPU201にはシステムバス202が接続される。このシステムバス202には処理プログラム等が格納されるシステムROM(EPROM)203、データ処理に使用されるワークRAM204、日時のデータを出力するリアルタイムクロック206が接続される。

【0027】また、システムバス202にはバックアップRAM205が接続される。

このバックアップRAM205にはパワーオフ時に設定パラメータが保存され、パワーオン時にその設定パラメータでもってシステムがイニシャライズされる。

【0028】また、システムバス202にはシリアルコントローラ207が接続される。キーボード3(図1に図示)はコントローラ207を介してシステムバス202に接続される。

【0029】また、システムバス202にはSCSIコントローラ208が接続される。光磁気ディスク装置4はコントローラ208を介してシステムバス202に接続される。

【0030】また、システムバス202には制御チャンネル用のLAPDコントローラ209およびデータチャンネル用のLAPBコントローラ210が接続される。システムバス202をデジタル回線(ISDN回線)と接続するときは、これらコントローラ209、210を介して接続されることになる。上述したように伝送装置1-1~1-nとはデジタル回線をもって接続できないが、伝送装置2と同種の他の伝送装置との接続は可能である。

【0031】また、システムバス202は内部モデムインターフェース211および内部モデム212を介してアナログ電話回線5に接続される。この内部モデム212を使用して伝送装置1-1~1-nとの間で静止画像データの伝送および通信が行なわれる。

【0032】また、システムバス202にはDTMFエンコード/デコード213が接続される。

【0033】221は、静止画像データ(自然画データ)のエンコード(データ圧縮処理)やデコード(データ伸長処理)、文字や手書きデータのデコード処理やエンコード処理等を制御するCPUである。

【0034】CPU221にはシステムバス222が接続される。このシステムバス222には処理プログラム等が格納されるシステムROM(EPROM)223、データ処理に使用されるワークRAM224、第1水準の漢字ROM225、第2水準の漢字ROM226が接続される。

【0035】また、システムバス222にはDSP基板インターフェース227を介してデジタルシグナルプロセッサ(DSP)228が接続される。DSP228では、静止画像データのエンコード(データ圧縮処理)およびデコード(データ伸長処理)が行なわれる。

【0036】また、システムバス222にはフレームメモリ229が接続される。フレームメモリ229には、ビデオデッキ2aやビデオカメラ2b等(図3に図示)からのビデオ信号がA/D変換器230でデジタル信号に変換されて静止画像データとして供給される。一方、フレームメモリ229より読み出される静止画像データはD/A変換器231でアナログ信号に変換されて

(4)

5
モニター2c(図3に図示)に供給される。なお、DSP228はフレームメモリ229にも直接接続される。

【0037】また、システムバス202と222との間には共有RAM241および双方向FIFO242が接続される。共有RAM241にはデコード処理やエンコード処理等を指示するデータがその都度格納される。また、双方向FIFO242を使用してシステムバス202と222の間における静止画像データの伝送が行なわれる。

【0038】以上の構成において、伝送装置1-1(1-2~1-nも同様)のフレームメモリ108に書き込まれている静止画像データを伝送装置2に送信する場合について説明する。

【0039】フレームメモリ108に書き込まれている静止画像データはDSP107でエンコード(データ圧縮処理)された後内部モデム111を介して電話回線5に供給され、この電話回線5より伝送装置2の内部モデム212に供給される。

【0040】内部モデム212からの静止画像データは内部モデムインターフェース211、システムバス202を介して一旦ワークRAM204に格納される。そして、ワークRAM204からの静止画像データは、システムバス202、双方向FIFO242、システムバス222およびDSP基板インターフェース227を介してDSP228に供給されてデコード(データ伸長処理)される。DSP228でデコードされた静止画像データはフレームメモリ229に書き込まれ、これによる画像がモニター2cに表示される。

【0041】また、ワークRAM204からの静止画像データは、システムバス202、SCSIコントローラ208を介して光磁気ディスク装置4に供給され、必要に応じて光磁気ディスク(MOディスク)にセーブ(記録保存)される。

【0042】次に、伝送装置2のフレームメモリ229に書き込まれている静止画像データを伝送装置1-1(1-2~1-nも同様)に送信する場合について説明する。

【0043】フレームメモリ229に書き込まれている静止画像データはDSP228でエンコード(データ圧縮処理)された後システムバス222、双方向FIFO242、システムバス202、内部モデムインターフェース211および内部モデム212を介して電話回線5に供給され、この電話回線5より伝送装置1-1の内部モデム111に供給される。

【0044】内部モデム111からの静止画像データはシステムバス102を介して一旦ワークRAM104に格納される。そして、ワークRAM104からの静止画像データはシステムバス102、バッファRAM106を介してDSP107に供給されてデコード(データ伸長処理)される。DSP107でデコードされた静止画

6
像データはフレームメモリ108に書き込まれ、これによる画像がモニター1cに表示される。

【0045】次に、光磁気ディスク装置4の光磁気ディスクに記録されている静止画像データを伝送装置1-1(1-2~1-nも同様)に送信する場合について説明する。

【0046】光磁気ディスク装置4で光磁気ディスクに書き込まれている静止画像データが読み出され、この静止画像データはSCSIコントローラ208、システムバス202、内部モデムインターフェース211および内部モデム212を介して電話回線5に供給され、この電話回線5より伝送装置1-1の内部モデム111に供給される。以下は、伝送装置2のフレームメモリ229に書き込まれている静止画像データを伝送装置1-1に送信する場合と同様である。

【0047】次に、伝送装置2のフレームメモリ229に書き込まれている静止画像データを光磁気ディスクにセーブ(記録保存)する場合について説明する。

【0048】フレームメモリ229に書き込まれている静止画像データはDSP228でエンコード(データ圧縮処理)された後システムバス222、双方向FIFO242、システムバス202およびSCSIコントローラ208を介して光磁気ディスク装置4に供給されて光磁気ディスクに記録保存される。

【0049】さらに、光磁気ディスク装置4の光磁気ディスクに記録されている静止画像データによる画像をモニター2cに表示する場合について説明する。

【0050】光磁気ディスク装置4で光磁気ディスクに記録されている静止画像データが読み出され、この静止画像データはSCSIコントローラ208、システムバス202、双方向FIFO242、システムバス222およびDSP基板インターフェース227を介してDSP228に供給されてデコード(データ伸長処理)される。DSP228でデコードされた静止画像データはフレームメモリ229に書き込まれ、これによる画像がモニター2cに表示される。

【0051】ところで、本例においては、伝送装置1-1(1-2~1-nも同様)より伝送装置2に画像セーブ要求を伴って静止画像データが送信されるときは、伝送装置2でファイル名が自動的に作成され、そのファイル名でもって磁気ディスク装置4の磁気ディスクに静止画像データがセーブされる。

【0052】図6は、画像セーブ要求を伴って静止画像データを伝送装置2に送信する場合における伝送装置1-1側の動作を示すものである。

【0053】まず、機能キー13(図2参照)を使用して送信する静止画像を選択する(ステップ151)。例えば、ビデオカメラ1bからのビデオ信号がフレームメモリ108を介してモニター1cに供給され、それによる動画が表示されている状態を考える。

(5)

7
【0054】この状態で、機能キー13の右端のキー（表示器12の「↓」の表示に対応）を順次押圧して表示器12に「FMRY」が表示されるようにする（図7Aに表示例を図示）。そして、機能キー13の「FMRY」に対応するキーを押圧することで、送信する静止画像が選択される。このとき、押圧タイミングの画像データがフレームメモリ108に格納されると共に、その画像データが繰り返し読み出されてモニター1cに供給され、モニター1cには選択された静止画像が表示される。

【0055】図7Bは、静止画像を選択した後の表示器12の表示例を示している。機能キー13の左端のキーに対応して「LIVE」が表示され、真ん中のキーに対応して「SEND」が表示される。「LIVE」に対応するキーを押圧することで、モニター1cに動画が表示される選択前の状態に戻すことができる。

【0056】次に、機能キー13の「SEND」に対応するキーが押圧されて画像データの送信が指示されると（ステップ152）、CPU101よりシステムバス102、内部モデム111を介して画像セーブ要求を送送装置2に送信する（ステップ153）。

【0057】図7Cは、このときの表示器12の表示例を示している。機能キー13の右端のキーに対応して「CNCL」が表示され、その隣のキーに対応して「LIVE」が表示される。「CNCL」に対応するキーを押圧して画像データの送信を中止できる。また、「LIVE」に対応するキーを押圧することで、画像データの送信中に例えばモニター1cにビデオカメラ1bからのビデオ信号による動画を表示できる。

【0058】また、「SND」はファイル名の表示位置を示しており、左下には画像の何%が送信されたかが表示される。

【0059】次に、ファイル名データを受信したか判断する（ステップ154）。ファイル名データを受信したときは、ファイル名データをワークRAM104に格納し（ステップ155）、表示器12の「SND」の右側位置にファイル名を表示する（ステップ156）。図7Dにはファイル名の表示例を示している。

【0060】次に、静止画像データを送送装置2に送信する（ステップ157）。この場合、フレームメモリ108に書き込まれている静止画像データをDSP107でエンコード（データ圧縮処理）した後ワークRAM104に一旦格納し、このワークRAM104よりシステムバス102、内部モデム111を介して送送装置2に送信する。このとき、表示器12の左下には画像の何%が送信されたかが表示されるが、この表示は、例えば00→10→20→・・・のように10%刻みでもって変化していく。

【0061】次に、OKメッセージを受信したか判断し（ステップ158）、受信したときは表示器12にOK

8
表示を行なう（ステップ159）。図7Eは、このときの表示器12の表示例を示している。

【0062】なお、詳細説明は省略するが、静止画像データを連続して送送装置2に送信する場合は、ステップ151～159が自動的に繰り返されることになる。

【0063】図8は、送送装置1-1が画像セーブ要求を伴って静止画像データを送信する場合における送送装置2の側の動作を示すものである。

10 【0064】まず、画像セーブ要求があるか判断する（ステップ251）。画像セーブ要求があるときは、ターミナルID（端末ID）、日付、時刻を使用してファイル名を作成する（ステップ252）。

【0065】上述せずも、送送装置1-1（1-2～1-nも同様）は個々にターミナルIDを設定することができ、このターミナルIDには所定文字数、例えば4文字以下の英数字が使用される。そして、このターミナルIDは、回線接続時に送送装置2に送信されて保持される。

20 【0066】次に、ステップ252で作成したファイル名のデータを、ワークRAM204よりシステムバス202、内部モデムインターフェース211、内部モデム212を介して送送装置1-1に送信する（ステップ253）。

【0067】次に、静止画像データを受信したか判断し（ステップ254）、受信したときは静止画像データをワークRAM204に格納し（ステップ255）、その後ステップ252で作成されたファイル名でもって磁気ディスク装置4の磁気ディスクに静止画像データ（静止画ファイル）をセーブ（記録保存）する（ステップ256）。

30 【0068】次に、CPU201よりシステムバス202、内部モデムインターフェース211、内部モデム212を介して送送装置1-1にOKメッセージを送信する（ステップ257）。

【0069】ステップ252におけるファイル名の作成は、具体的には図9に示すフローチャートにそって行なわれる。

40 【0070】最初に、リアルタイムクロック206より出力される日時のデータから日付および時刻を獲得する（ステップ261）。

【0071】ここで、ファイル名は、図10に示すようにピリオド[.]を挟んだ前半部の[TTTTYMDH]の8文字の枠と後半部の[mmn]の3文字の枠に、後述する所定の英数字が挿入されて決定される。

50 【0072】まず、ターミナルIDを[TTTT]の箇所に入力する（ステップ262）。この場合、[TTTT]の箇所はターミナルIDの桁数と等しい桁数となり、ターミナルIDが設定されていないときは、[TTTT]の箇所は空欄となる。次に、「年」の最下位桁[Y]の箇所に入力する（ステップ263）。次に、

(6)

10

「月」を表1に従って変換したものを[M]の箇所に挿入する(ステップ264)。

*【0073】
*【表1】
数値－文字変換表

数	文字	数	文字	数	文字
0	0	13	D	26	Q
1	1	14	E	27	R
2	2	15	F	28	S
3	3	16	G	29	T
4	4	17	H	30	U
5	5	18	I	31	V
6	6	19	J		
7	7	20	K		
8	8	21	L		
9	9	22	M		
10	A	23	N		
11	B	24	O		
12	C	25	P		

【0074】次に、「日」を表1に従って変換したものを[D]の箇所に挿入する(ステップ265)。次に、「時」を表1に従って変換したものを[H]の箇所に挿入する(ステップ266)。次に、「分」の2桁をそれぞれ[n]の箇所に挿入する(ステップ267)。次に、0を[n]の箇所に挿入する(ステップ268)。
[n]の箇所は同一「分」に作成されたファイルの作成順を示す通し番号となる。

【0075】次に、CPU201の制御によって、上述したように決定されたファイル名で光磁気ディスクのファイル検索をする(ステップ269)。この場合、光磁気ディスクの「ディレクトリエントリ」の領域を検索することになる(図11は光磁気ディスクの記録内容を図示)。この領域には、光磁気ディスクに静止画像データがファイルされるとき、そのファイル名データが記録保存される。

【0076】ステップ269でファイルがあるときは、[n]の箇所を1だけインクリメントし(ステップ270)、ステップ269に戻って再度決定されたファイル名で光磁気ディスクのファイル検索をする。なお、通し番号が10以上となるとき[n]は表1に従って1文字の英字とされる。ステップ269でファイルがないときは、ファイル名作成動作を終了する。

【0077】例えば、伝送装置1-1のターミナルIDが「TMID」で、それからの画像セーブ要求が1991年5月13日12時18分であるとき、「TMID15DC.180」がファイル名として決定される。ただし、n=0の場合である。

【0078】図12は、画像セーブ要求時における伝送装置1-1(1-2～1-nも同様)と伝送装置2との

間の信号シーケンスを示している。

【0079】伝送装置1-1で送信する静止画像を選択して画像データ送信を指示すると、伝送装置1-1より伝送装置2に画像セーブ要求が送信される。

【0080】これに対して伝送装置2ではターミナルID、日付、日時を使用してファイル名が作成され、作成したファイル名データは伝送装置1-1に送信される。これにより伝送装置1-1の表示器12にファイル名が表示される。

【0081】そして、伝送装置1-1より伝送装置2に静止画像データが送信され、作成されたファイル名でもって光磁気ディスクにセーブされる。セーブが完了すると、伝送装置2より伝送装置1-1にOKメッセージが送信され、表示器12にはセーブ動作を終了したことが表示される。

【0082】このように本例においては、伝送装置1-1～1-nより伝送装置2に画像セーブ要求を送信するときは、伝送装置2で自動的にファイル名が作成され、そのファイル名で静止画像データが光磁気ディスクにセーブされるため、伝送装置1-1～1-nではファイル名を指定する操作を省略することができ、操作が簡単になると共に、操作時間の短縮によって消費電力を節約することができる。

【0083】また、伝送装置2では、伝送装置1-1～1-nのターミナルID、日付および時刻からファイル名が唯一に作成されるので、1つの光磁気ディスクに対してファイル名が重複することが少なく、ファイル検索量を少なくでき、セーブ操作を迅速に行なうことができる。

【0084】また、「月」、「日」、「時」は表1に従

(7)

11

って1文字の英数字で表すようにしたので、ファイル数を比較的少ない文字数で構成することができる。

【0085】また、ファイル名作成のアルゴリズムが比較的簡単であるため、ファイル名より、どの端末から送信された静止画像データか、あるいはファイルの作成日時を容易に知ることができる。したがって、ファイル名を見て端末毎に、あるいはファイル作成順に分類することができる。

【0086】なお、上述実施例においては、静止画像データを送信して光磁気ディスクにセーブするものであるが、この発明はその他のデータを送信してファイル装置にセーブするデータ伝送システムにも同様に適用することができる。

【0087】また、上述実施例においては、日付および時刻を使用してファイル名を作成するものであるが、日付、時刻の一方を使用して作成しても同様の作用効果を得ることができる。

【００８８】また、上述実施例においては、据置型静止画伝送装置２に接続されるファイル装置を光磁気ディスク装置４としたが、光ディスク装置、磁気ディスク装置等のその他のファイル装置であっても、この発明を同様に適用することができる。

【0089】

【発明の効果】この発明によれば、ファイル装置を備える第２の端末装置でファイル名が作成されるため、送信側の第１の端末装置ではファイル名を指定する操作を省略でき、操作の簡単化、操作時間の短縮による消費電力の節約を実現できる。

【0090】また、ファイル名を日付、時刻の少なくとも一方を使用して作成するときは、ファイル作成時の日付、時刻でもってファイル名が唯一に決まるため、1つのファイルシステム（ディスク等）に対してファイル名の重複が少なく、ファイル名検索時間を少なくでき、セーブ操作を迅速に行なうことができる。

【図面の簡単な説明】

12

【図1】静止画伝送システムの概観を示す図である。

【図2】ポータブル型静止画伝送装置の操作パネル面を示す図である。

【図3】静止画伝送システムの構成を示すブロック図である。

【図4】ポータブル型静止画伝送装置の構成を示すブロック図である。

【図5】据置型静止画伝送装置の構成を示すブロック図である。

10 【図6】ポータブル型静止画伝送装置の動作（画像セーブ要求時）を示すフローチャートである。

【図7】液晶表示器の表示例（画像セーブ要求時）を示す図である。

【図8】据置型静止画伝送装置の動作（画像セーブ要求時）を示すフローチャートである。

【図9】フィル名作成のルーチンを示すフローチャートである。

【図10】ファイル名の文字配列を示す図である。

【図11】光磁気ディスク（MOディスク）の記録内容
を示す図である。

【図12】信号シーケンス（画像セーブ要求時）を示す図である。

【符号の説明】

1-1~1-n ポータブル型静止画伝送装置

2 据置型静止画伝送装置

3 キーボード

4 光磁気ディスク装置

5 アナログ電話回線

101, 201, 221 CPU

30 104, 204, 224 ワークRAM

105, 206 リアルタイムクロック

107, 228 デジタルシグナルプロセッサ

108, 229 フレームメモリ

1 1 1, 2 1 2 内部モデル

【図 10】

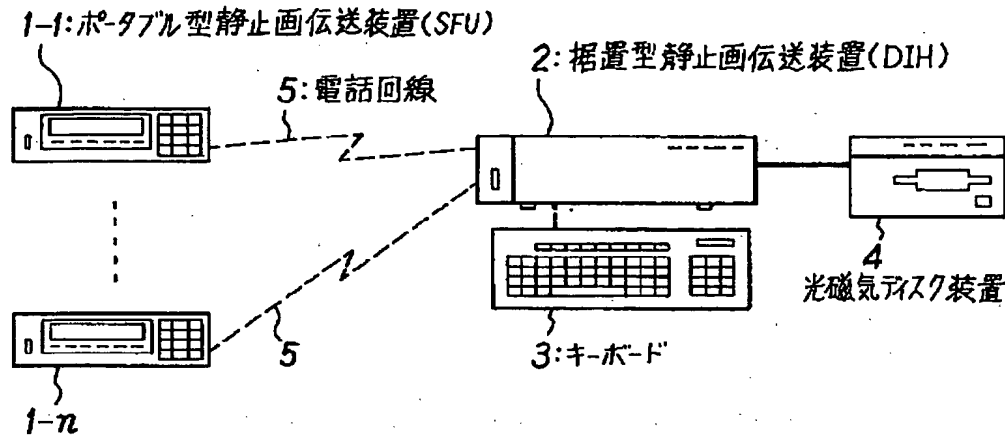
ファイル名の文字配列

[illegible]

(8)

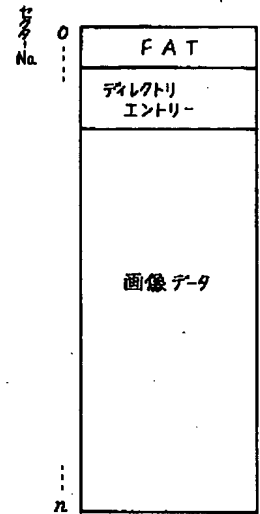
【図1】

静止画伝送システム



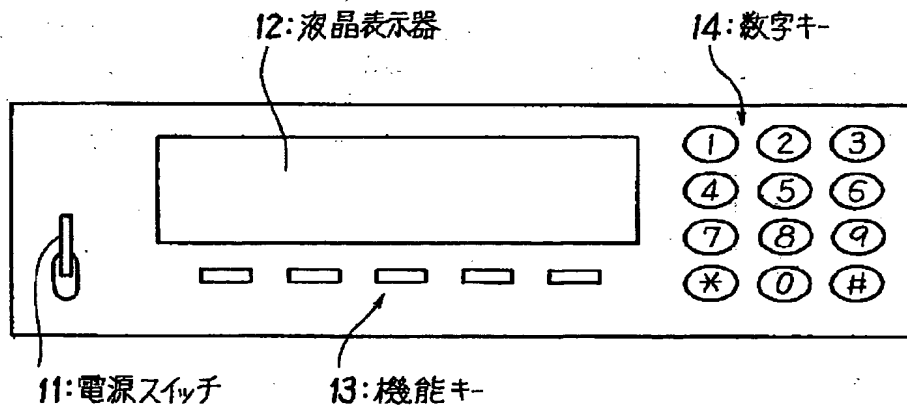
【図11】

MOディスクの記録内容



【図2】

操作パネル面

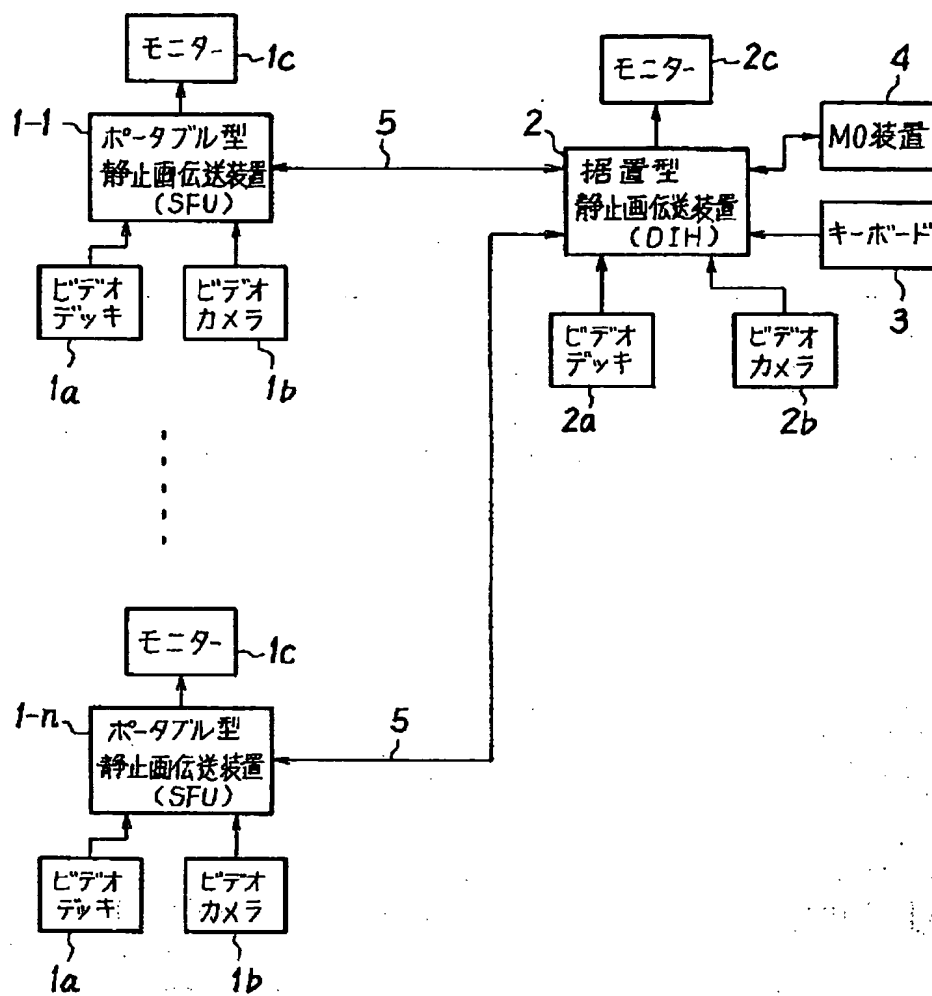


1-1

(9)

【図3】

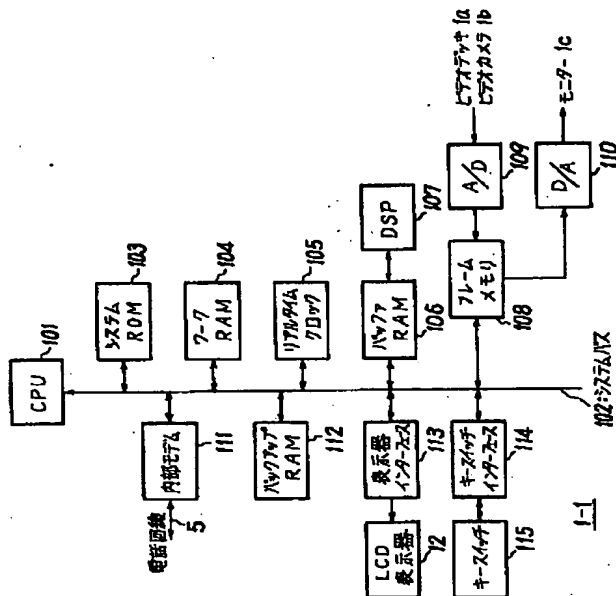
静止画伝送システム



(10)

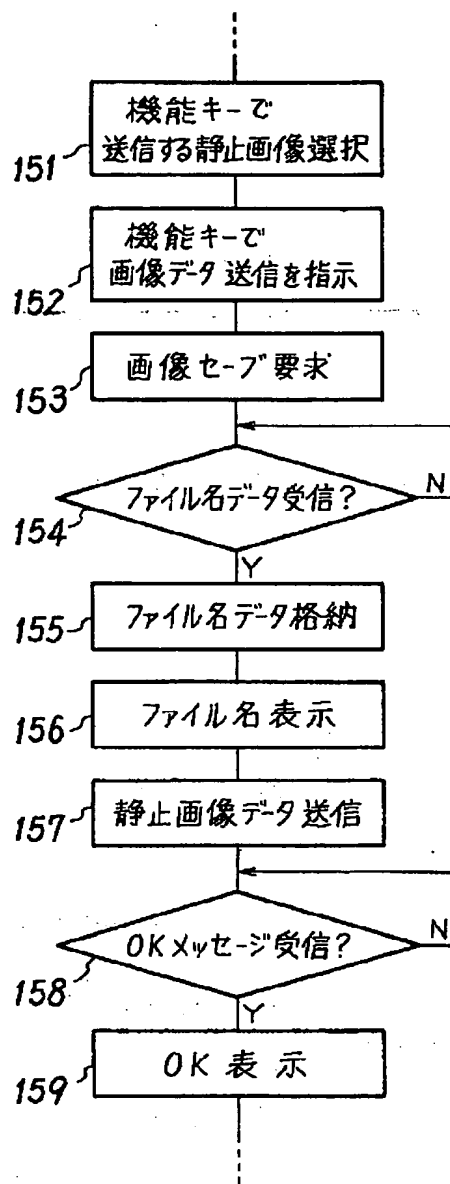
【図4】

ポータル型静止画伝送装置(SFU)



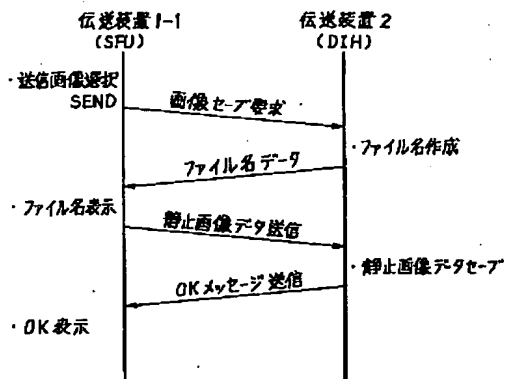
【図6】

伝送装置1-1(SFU)の動作
(画像セーブ要求時)



【図12】

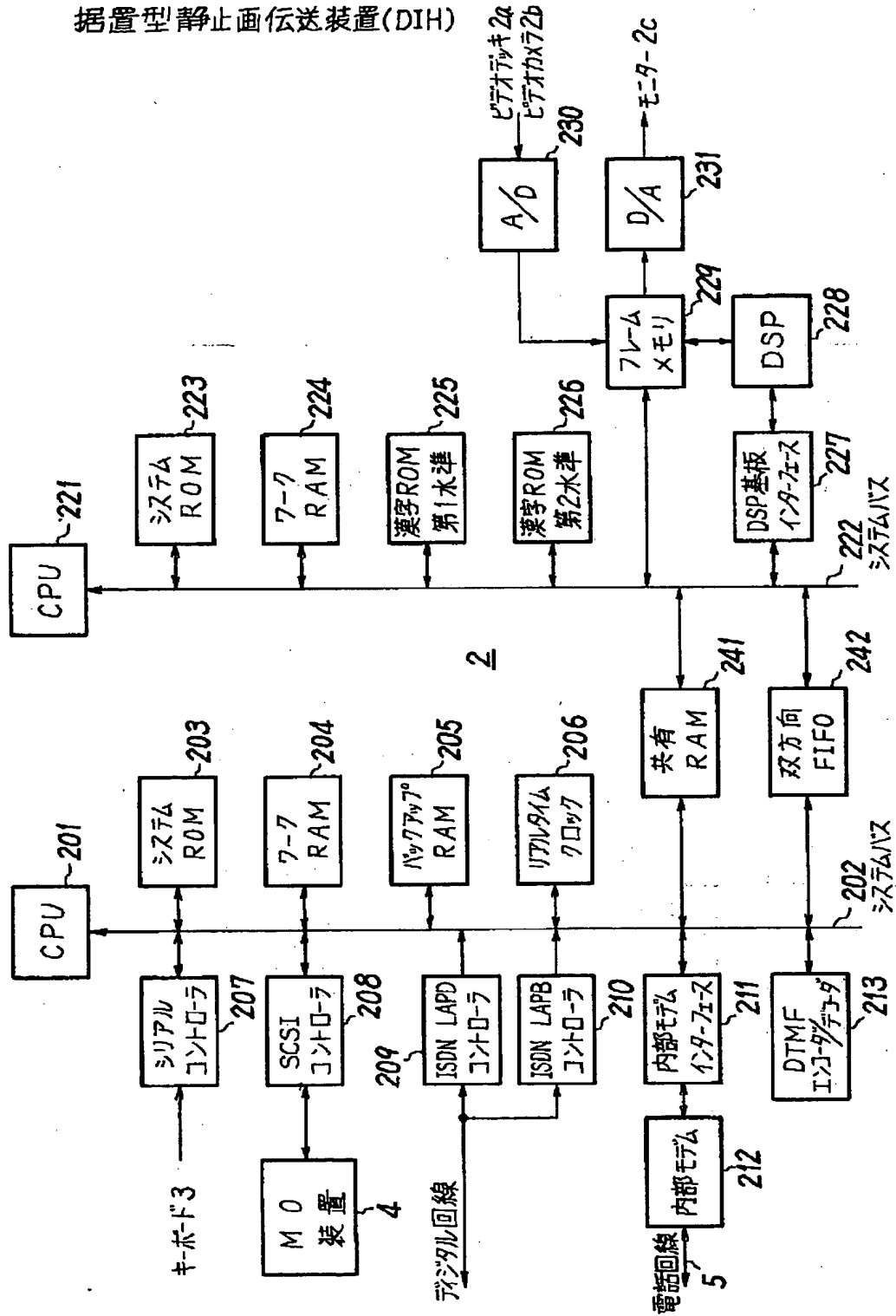
信号シーケンス(画像セーブ要求時)



(11)

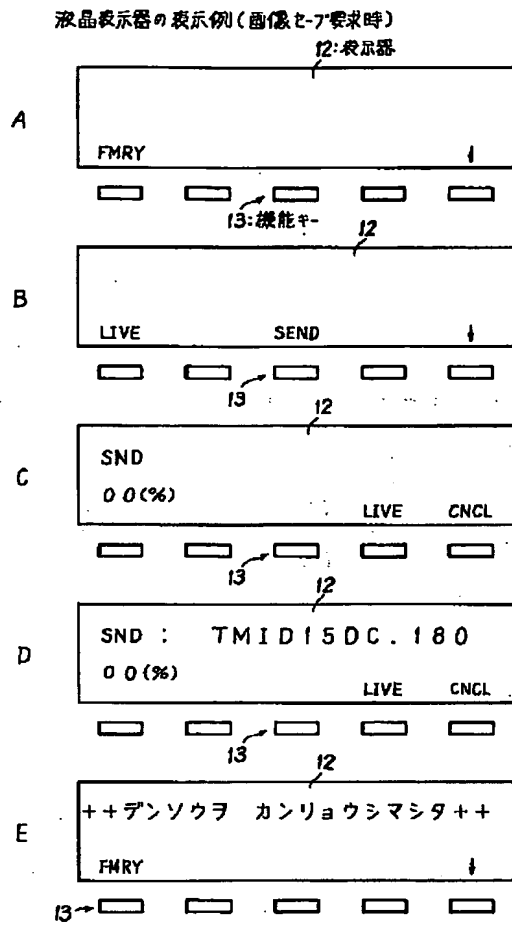
【図5】

据置型静止画伝送装置(DIH)

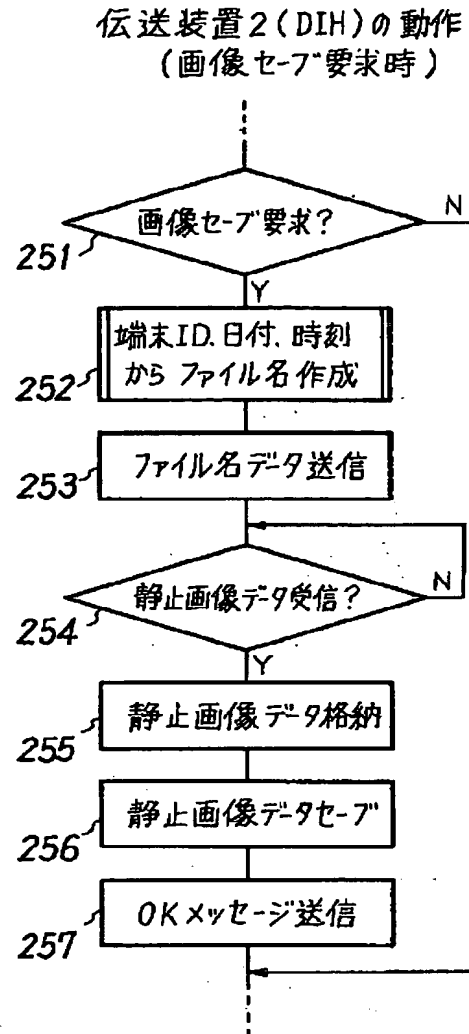


(12)

【図7】



【図8】



(13)

【図9】

ファイル名作成ルーチン

